



外国出張報告書 462

平成 25 年 12 月 25 日

1. 出張国名 セネガル
2. 出張月 平成 25 年 12 月
3. 出張目的 アフリカ稲作振興に関わる共同研究推進

4. 成果の概要

セネガル共和国サンレイに所在するアフリカ稲センター（AfricaRice）のサヘル支所を訪問し、Ndiaye 圃場および Fanaye 圃場における雨季作栽培の調査と、次年度の乾期作における供試材料と栽培方法についての打ち合わせを行なった。

Ndiaye 圃場では全ての材料が既に出穂期を過ぎ、早生の系統は黄熟期を迎えていた。生育期間、草姿、草丈等の系統間差が良く表れており、観察適期に訪問が出来たと考える。塩害、病虫害、高温及び低温障害等目立った障害は遠観では観察されなかった。

一方、Fanaye 圃場では播種・移植が遅れたことから供試材料の生育ステージは Ndiaye 圃場に比して遅れており、一番晩生の系統が出穂を始めたところであった。ここでも系統間差は観察できたものの、一部で虫害が発生していたことから、圃場利用・管理の課題が明らかとなった。

次期作の打ち合わせでは今作で栽培できなかった有望系統の見直しと、新規の準同質遺伝子系統（NILs）の導入について協議した。NILs の種子は JIRCAS 側から送付できるよう手配することとなった。